

# 高松市内遺跡発掘調査概報

-平成14年度国庫補助事業-

2003年3月

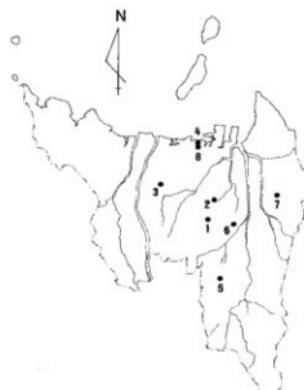
高松市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、高松市教育委員会が平成 14 年度に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調事業の概要報告書である。
- 2 本書には平成 14 年度事業のうち、調査期間が平成 14 年 4 月から 12 月にかけて実施した公共工事に伴う確認調査 4 件、民間開発に伴う確認調査 4 件についてそれぞれ収録した。
- 3 調査は、高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員川畠聰・山元敏裕が担当した。
- 4 本書の執筆は調査担当者が行い、編集は川畠が行った。
- 5 調査の実施にあたっては、次の方々の指導・協力を得た。(敬称略、五十音順)  
香川県教育委員会、四国電力株式会社、社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会、  
社会福祉法人銀河の会、荒木伸、片桐孝浩(香川県教育委員会文化行政課)、  
松本和彦(財団法人香川県埋蔵文化財調査センター)
- 6 本書の挿図として、国土地理院発行地形図 2 万 5 千分の 1 を一部改変して使用した。
- 7 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。
- 8 本報告書の高度値は、海拔高または地表面からのマイナス値を表わす。方位は、N が座標北、M が磁北を表している。

## 目 次

|   |    |
|---|----|
| 日暮・松林遺跡(香川県済生会病院移転新築工事) .....           | 2  |
| 松縄町南原地区(高松市立中央小学校校舎増築工事) .....          | 7  |
| 西春日町北山浦地区(高松市水道局調整池 100 トンほか整備工事) ..... | 8  |
| 史跡高松城跡(三の丸、玉藻公園多目的トイレ整備工事) .....        | 10 |
| 三谷町姥懐地区(知的障害者通所授産施設建設工事) .....          | 21 |
| 六条町下所地区(四国電力株式会社六条変電所および鉄塔新設工事) .....   | 22 |
| 久木古墳(市道新田町 61 号線道路改良工事) .....           | 24 |
| 高松城跡(丸の内、個人住居ビル建設工事) .....              | 27 |



第 1 図 平成 14 年度高松市内遺跡調査位置図

## ひぐらし まつばやし いせき 日暮・松林 遺跡

1. 調査地 高松市多肥上町
2. 調査期間 平成14年4月9日～11日
3. 調査担当者 川畑 聰・末光甲正
4. 調査の原因 香川県済生会病院移転新築工事
5. 調査結果の概要

日暮・松林遺跡は、平成5・6年度に都市計画道路福岡・多肥上町線予定地内で発掘調査され、弥生時代中～後期を中心とした集落跡が確認されていた。この遺跡に隣接して、済生会病院が建設されることとなり、事前の確認調査を実施した。

確認調査は、病院建設予定地と職員宿舎建設予定地の2ヵ所において実施した。その結果、病院建設予定地において平成5・6年度調査と同じ弥生時代中～後期の集落跡を確認した。なお、職員宿舎予定地では、後世の削平が著しいためか遺構・遺物は確認されなかった。

病院建設予定地では、第1～11トレントを設定し、弥生時代の竪穴住居・大溝・溝・柱穴・土坑、江戸時代以降の溝を検出した。これらの遺構は、現代の水田土壤層・床土を除去した段階で確認でき、安定した微高地上に立地していると考えられる。

検出した遺構のうち、もっとも大規模なものは弥生時代の大溝で、第3・5・11トレントにかけて確認された。大溝より西に竪穴住居等の遺構が集中することから集落の東端に掘削された溝と推定される。この大溝から、弥生時代中～後期の土器（第5図1～7）が出土している。1・2は壺口縁部、3・4は甕口縁部、5～7は底部の破片である。

他に検出した遺構としては、第1・7トレントで竪穴住居を、第1・2・8トレントで溝を、第1・2・6・7トレントで柱穴などを確認している。これらの遺構からは弥生土器細片が出土したが、竪穴住居周辺よりまとまって土器・石器（第5図8～13）が出土している。8・9は平安時代に属する土師器杯の底部、10は古墳時代末の須恵器杯身、11は平安時代に属する土師器鍋の破片である。12・13は弥生時代の石器で、12は石鎌、13は不定形刀器と考えられる。検出した竪穴住居は規模・形状より弥生時代のものであるが、周辺より古墳時代末～平安時代の土器が出土することから、付近にこれらの時期の遺構が存在する可能性がある。

### 6.まとめ

病院建設予定地のうち、弥生時代の大溝を含めて西側において集落が存在すると考えられる。この集落は、平成5・6年度調査で検出した弥生集落、さらに西側の桜井高校建設時に確認された弥生集落（多肥松林遺跡）と同一のものである。桜井高校建設予定地では弥生集落の西限を示す旧河道を検出しておらず、今回の調査地では集落の東限を示す大溝を確認したことになる。

なお、今回の調査地は平成14年5月～7月に発掘調査が実施され、記録保存の措置を取った。



第2図 日暮・松林遺跡調査地位置図



第3図 周辺の遺跡と調査対象地（斜線部分、縮尺 1/5,000）

（香川県教育委員会ほか 1999『多肥松林道路』より抜粋・一部加筆）



写真1 調査地全景（西半分）



写真2 調査地全景（東半分）



写真3 第1トレンチ（西から）



写真4 第2トレンチ（西から）



写真5 第3トレンチ（南西から）



写真6 第5トレンチ（南西から）

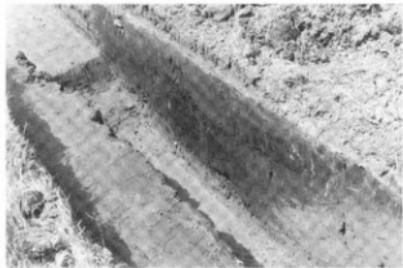


写真7 第5トレンチ（大溝、南東から）



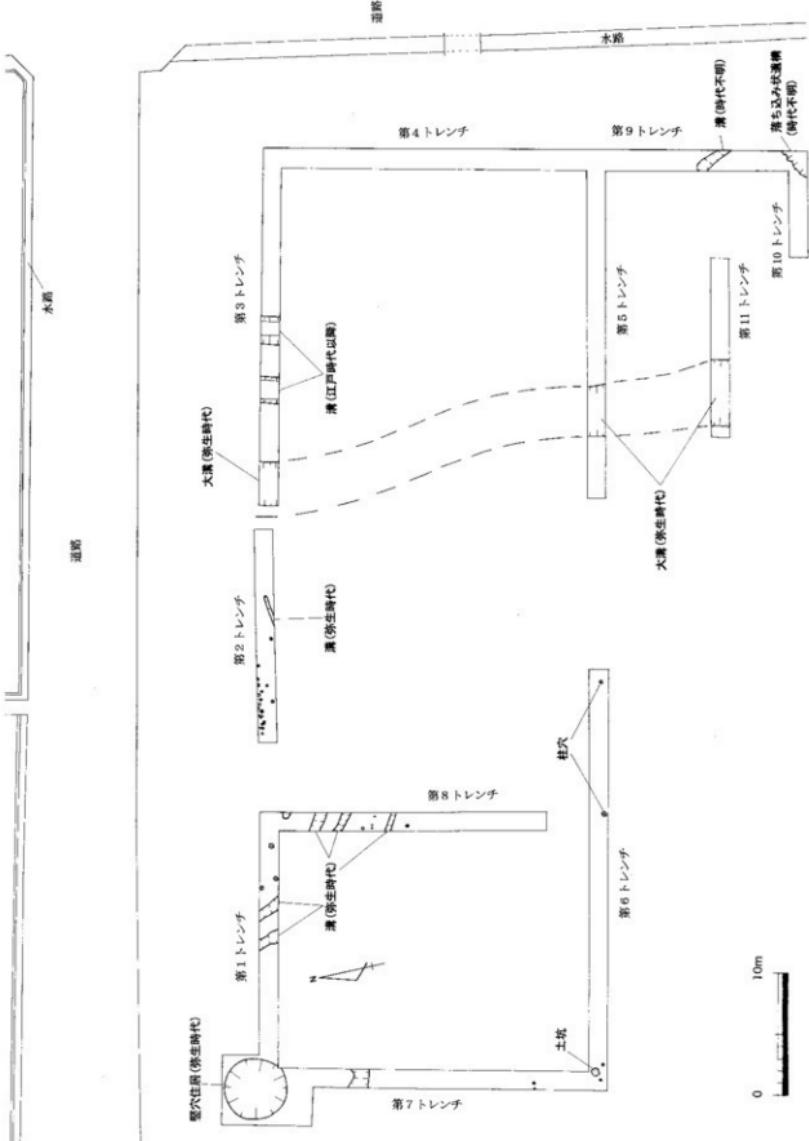
写真8 第6トレンチ（東半分、西から）



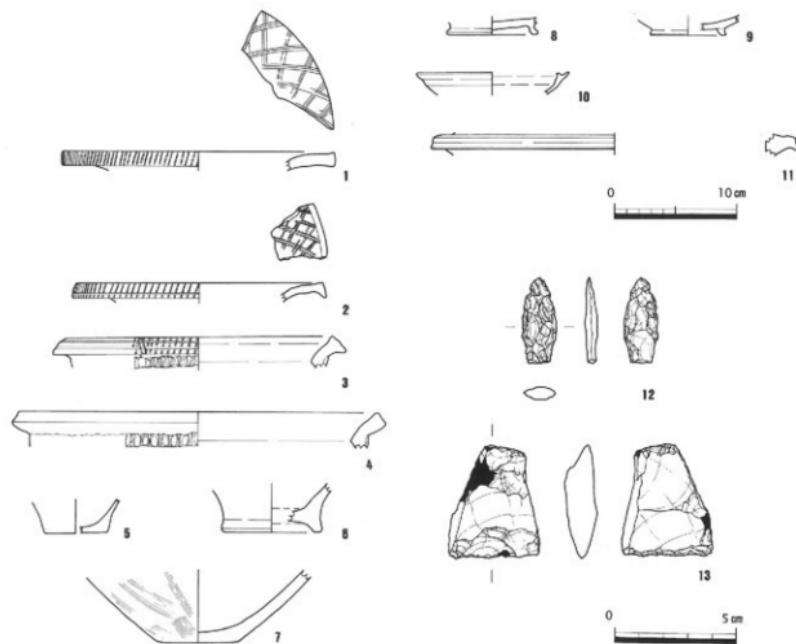
写真9 第7トレンチ（南から）



写真10 第9トレンチ（北から）



第4図 トレンチ平面図（縮尺 1/400）



第5図 トレンチ出土遺物実測図（縮尺 土器 1/4, 石器 1/2）

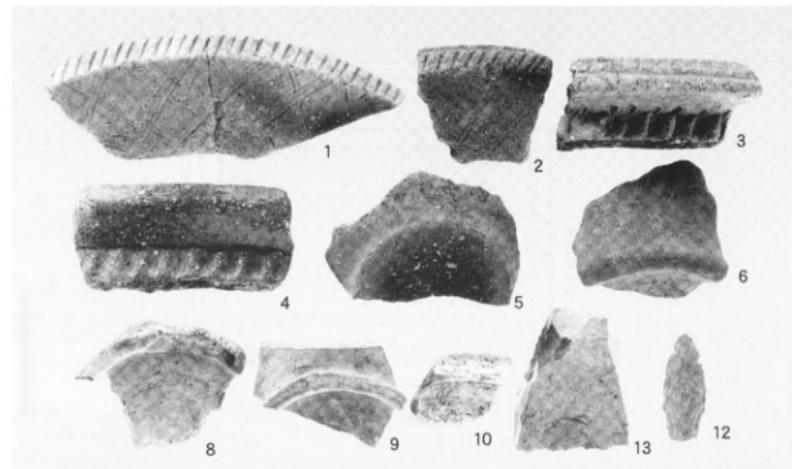


写真 11 トレンチ出土遺物

## まつなわちょう 松縄町 南原地区

- 調査地 高松市松縄町字南原
- 調査期間 平成14年8月19日～22日
- 調査担当者 川畠 聰
- 調査の原因 中央小学校校舎増築工事
- 調査結果の概要

高松平野のほぼ中央に位置する当該地域は、かつて条里地割が良好に残る農村地帯であったが、国道11号高松東道路バイパス建設や大規模な区画整理事業により急速な変貌をとげ、郊外型のショッピングゾーンとして、またマンションなどを含めた新興住宅地となりつつある。こうした中、バイパスや都市計画道路建設に伴う発掘調査が実施され、数多くの遺跡が新規に発見された。今回の調査地周辺でも、松縄下所遺跡や井手東Ⅰ・Ⅱ遺跡、大池遺跡が確認され、さらに調査地東側には国指定重要文化財「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の比定地が所在している。

また、旧地形分析で調査地を概観すると、旧香東川によって形成された微高地に立地しており、比較的安定した地盤である。

高松市立中央小学校校舎増築工事が計画され、機械掘削時に立会調査を実施することになった。増築範囲は南北約13m×東西約27mを測り、立会調査は基礎部分を機械掘削により約1m 60cm掘削する時に実施した。堆積していた土層は、4層に分かれ、第1層は花崗土（深さ約80cm、校舎建築時盛土）、第2層は灰色シルト質極細砂（深さ約10cm、学校建設以前の水田耕作土層）、第3層は緑灰色シルト質極細砂（深さ約10cm、水田床土）、第4層は黄褐色シルト質極細砂（深さ約60cm以上、地山）である。旧地形分析どおり、安定した微高地であるが、それゆえ後世の削平を受けたためか、遺構・遺物とも確認されなかった。

### 6.まとめ

今回の立会調査では、機械掘削中においても、掘削断面の土層観察においても、埋蔵文化財は確認されなかった。



第6図 松縄町調査地位置図



写真12 調査地全景（北東から）

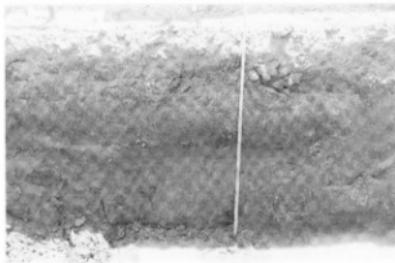


写真13 機械掘削部分断面

にしきすがちょうきたやまうら  
西春日町北山浦地区

1. 調査地 高松市西春日町字北山浦
2. 調査期間 平成14年7月9日
3. 調査担当者 川畠 聰
4. 調査の原因 高松市水道局調整池100トン、ポンプ室ほか整備工事
5. 調査結果の概要

高松市街地の南にある独立丘陵・石清尾山塊には、積石塚古墳として有名な石清尾山古墳群がある。石清尾山古墳群は、前期の積石塚だけではなく、後期に属する盛土の横穴式石室墳が数多くあり、今回の調査地周辺でも幾つかの支群が知られている。今回の調査地は、石清尾山塊のうち、峰山と淨願寺山の間にある鞍部・切通峠の東側谷部に位置する。近くには中世城館である片山城跡の存在が指摘され、東側平地には弥生時代の集落跡である北山浦遺跡が所在している。

約35m×約10mを測る南北に長い調査対象地のうち、西側において長さ約25m×幅約1.5mのトレンチを設定した。調査地南側では、深さ約2m掘削しても地山は現れず、調査地北端では深さ約50cmで淡黄色シルト質極細砂の地山が現れた。調査対象地は、現在平坦地であるが、旧地形は北から南に向かって傾斜する斜面であったと考えられる。埋土は3層に分けられ、第1層は現代搅乱層、第2層が花崗土を主体とする盛土層、第3層が谷埋没土で褐色シルト質極細砂層である。なお、調査地北側中央では、現代の搅乱層が深さ約2m以上に及んでいた。トレンチ内において、遺構および遺物は一切確認されなかった。

#### 6.まとめ

現代搅乱層や谷埋没土層しか確認できず、当該地においては、埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。



第7図 西春日町調査地位置図



写真14 トレンチ全景（北から）

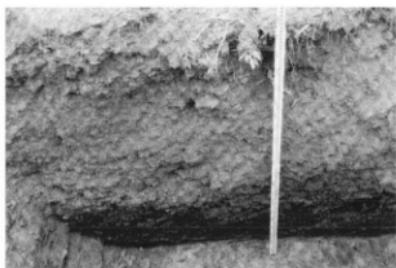
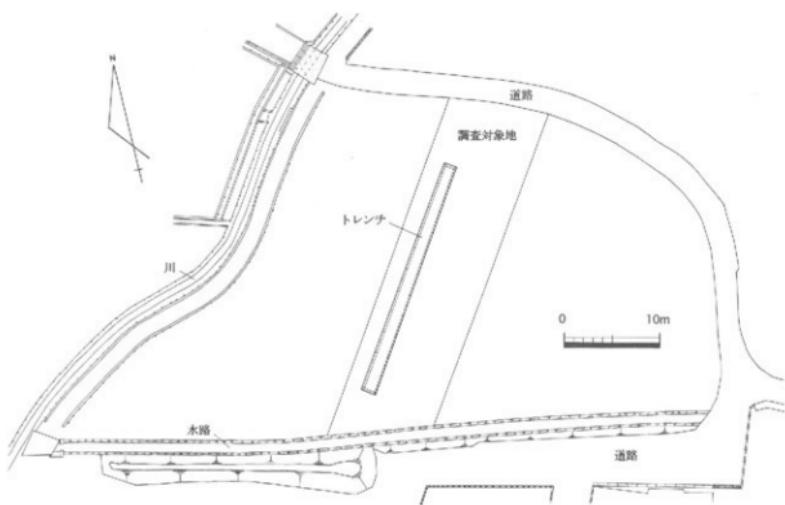


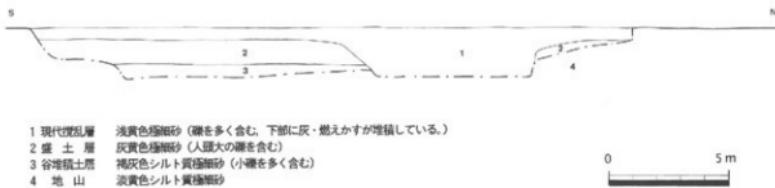
写真15 トレンチ西壁断面



第8図 調査地位置図（縮尺 1/5,000）



第9図 トレンチ位置図（縮尺 1/500）



第10図 トレンチ西壁土層図（縮尺 1/200）

## 史跡高松城跡（三の丸、竜檜台北側）

- 調査地 高松市玉藻町2番1号
- 調査機関 平成14年10月7日～10日
- 調査担当者 川畠 聰
- 調査の原因 玉藻公園多目的トイレ整備工事
- 調査結果の概要

高松城は、天正15年(1587)に入封した生駒親正によって翌年より築城され、寛永19年(1642)に高松藩主となった松平家が明治維新を迎えるまで藩の居城であった。今回の調査地である三の丸には、藩主が日常暮らしていた被雲閣がかつて建てられており、この三の丸南東隅にある竜檜台北側の平地が調査対象地である。

調査地には既存のトイレがあり、このトイレを増築するとともに、既存の浄化槽への排水管を埋設する工事に先立ち、確認調査を実施した。確認調査は、トイレ増築部分と排水管(トイレ側)を対象とした第1トレーンチ、排水管(浄化槽側)を対象とした第2トレーンチを設定した(第13図)。なお、第1トレーンチは、検出した石列・礎石の範囲確認のため、掘削範囲を拡張している。

### 【第1トレーンチの概要】(第14図)

遺構面(整地層)を3面確認し、検出した遺構および年代は次のとおりである。

《第1遺構面》 第4層(整地層)上面にあたる。小円礎を一面に棟いている。17～19世紀の遺物が第4層から出土しているが、第2遺構面が19世紀後半以降であることから、第1遺構面は20世紀のものと推定される。

《第2遺構面》 第10層(整地層)上面にあたる。石組・柱穴(SP03)を検出した。第10層が石組で終焉し東へ延びないことから、石組は整地のための土留めと考えられる。この場合、土塀石垣と石組の間に幅約1m30cm、深さ約30cmの溝(一段低くなっている部分)が存在していたと考えられる。第10層中より18世紀後半～19世紀中頃の陶磁器片が出土していることから、第2遺構面は19世紀後半以降の年代が考えられる。

《第3遺構面》 第11層(整地層)上面にあたる。礎石・石列・柱穴(SP01・02)を検出した。第11層中より18世紀前半の陶磁器片が出土していることから、第3遺構面は18世紀後半以降の年代が考えられる。

### 【第2トレーンチの概要】(第15図)

遺構面(整地層)を2面確認し、検出した遺構および年代は次のとおりである。なお、既存の浄化槽設置工事により大半が壊乱であり、壁面の一部で遺構と整地層を確認した。

《第1遺構面》 第9層(整地層)上面にあたる。小円礎を一面に棟いている。第9層は第1トレーンチ第4層と同一であり、20世紀のものと推定される。

《第2遺構面》 第10層上面にあたる。この10層は、遺構埋土で下部に瓦片を多く含むことから、廃棄土坑と想定される。第10層中より18世紀後半～19世紀前半の陶磁器片が出土している。

### 【出土遺物の概要】(第16図)

《第1トレーンチ第2～4層》 1は京・信楽焼の磁器端反碗で1820～60年代に見られるものであ



第11図 史跡高松城跡（三の丸）調査地位置図

る。2は磁器皿で18世紀前半頃か。3は土師質土器外耳付鍋で17世紀頃。

《第1トレーニング第10層》 4～9は肥前系の磁器である。4は染付皿で18世紀中葉、5は染付碗で18世紀、6も染付碗で18世紀末～19世紀初頭、7は端反碗で1820～60年代、8は染付蓋で19世紀前半頃、9は青磁染付碗で18世紀後半のものである。10は肥前唐津京焼の陶器碗である。11～13は瀬戸美濃の陶器である。11は瓶掛で、12は刷毛目碗で18世紀末～19世紀初頭、13は広東碗で1780～1820年代のものである。14は土師皿で17世紀頃か。15は焼塙蓋で18世紀後半以降見られるものである。

《第1トレーニング第11層》 16は京・信楽焼の磁器碗で18世紀後半以前のものである。17～20は肥前系の磁器である。17は染付半球形小碗で18世紀前半、18～20は染付皿で18世紀前半のものである。19と20は同一個体の可能性がある。21・22は備前焼で、21は擂鉢で18世紀前半～中頃、22は人形徳利である。

《第2トレーニング第4層》 23は瀬戸美濃の磁器小皿で19世紀以降のものである。24は軟質施釉陶器で幕末以降のものである。25は備前焼灯明皿で18世紀後半のものである。26は壺・明石焼擂鉢で18世紀末～19世紀初頭のものである。27は焼塙蓋で18世紀後半以降見られるものである。27と37は同一個体の可能性がある。28は土師質土器外耳付鍋で17世紀初頭のものである。

《第2トレーニング第10層》 29～32は肥前系の磁器である。29は染付鉢で18世紀末～19世紀初頭、30も染付鉢で18世紀前半、31は染付碗で18世紀前半、32は薄手の半球形碗で18世紀前半のものである。33は長崎波佐見窯産の可能性があり18世紀後半のものである。34は京信楽の陶器碗で18世紀後半のものである。35は瀬戸美濃の太白手碗で1780～1820年代のものである。37は焼塙蓋で18世紀後半以降見られるものである。38は焙烙である。

## 6.まとめ

高松城跡三の丸は、17世紀中頃の「高松城下図屏風」によれば空地であるが、後に藩主が居住した披雲閣が建てられている。この披雲閣は、明治5年(1872)に取壊されるが、「披雲閣見取図」(写真26・27、時期不詳)によって詳細は知ることができる。この図によれば、調査地には「御ツキ屋」と呼ばれる土間の建物が描かれている。

この三ノ丸の変遷と調査成果を照らし合わせると、第1トレーニング第3遺構面で確認した礎石・石列は、絵図とは若干ずれるが「御ツキ屋」に伴う遺構の可能性がある。次に第1トレーニング第2遺構面は、明治5年に披雲閣を取壊した際の整地でできた遺構面の可能性があり、石組もほぼ同じ時期と推定される。第2トレーニング第2遺構面で確認した廐棄土坑も、披雲閣取壊し時に伴う可能性が指摘できる。なお、工事の設計変更により検出した遺構の保存が図られ、平成15年2月に工事立会を実施し、第2トレーニング第10層が第1トレーニング第10層を切っていることを確認した。



写真16 第1トレーニング全景（西から）



写真17 磚石・石列・柱穴（東から）



写真 18 石組（北東から）

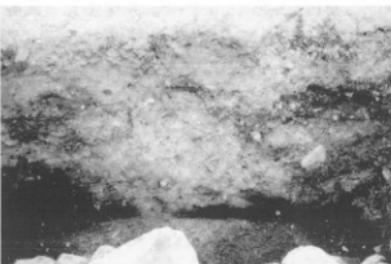


写真 19 第1トレンチ土層（東端、西から）



写真 20 第1トレンチ土層（石組、北から）



写真 21 第1トレンチ土層（B地点、北東から）



写真 22 第1トレンチ土層（埋設管、北西から）



写真 23 第1トレンチ土層（西端、北東から）



写真 24 第2トレンチ（南西から）



写真 25 第2トレンチ土層（南西から）

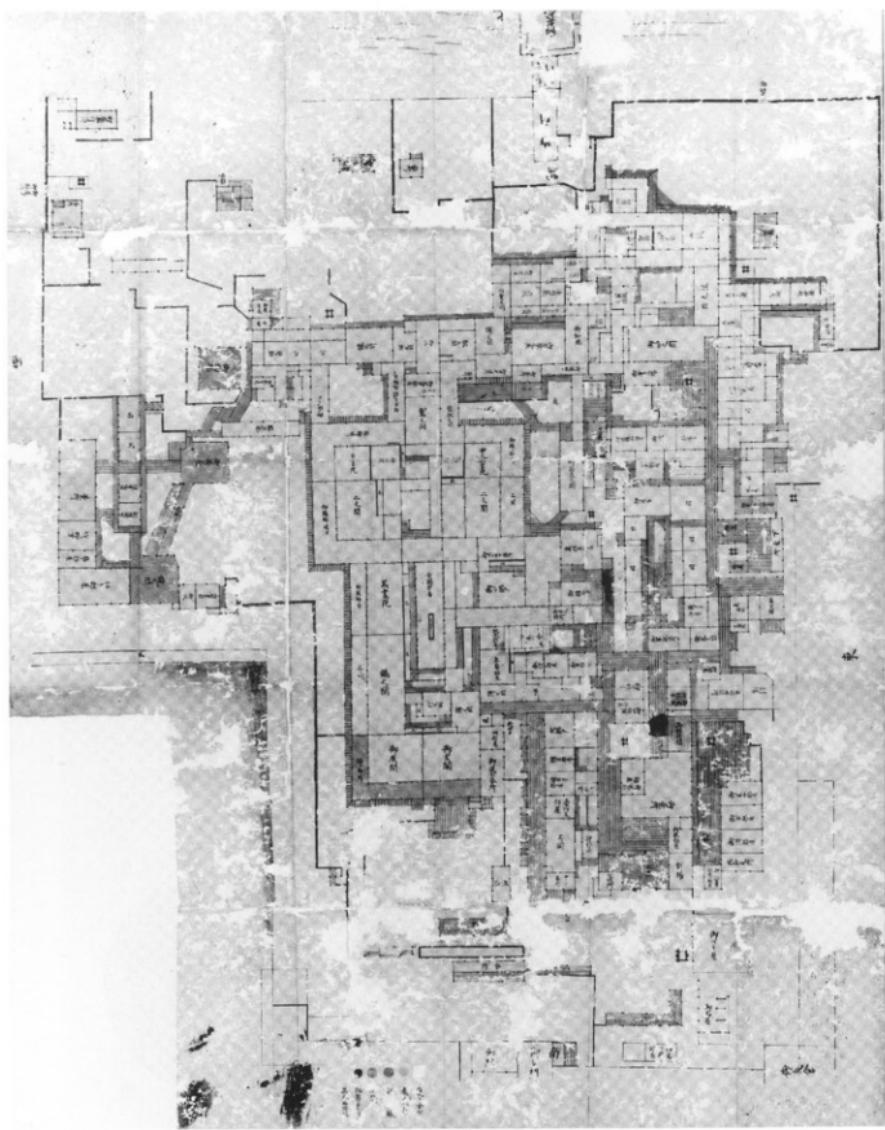


写真 26 「披雲閣見取図」(高松市歴史資料館所蔵)

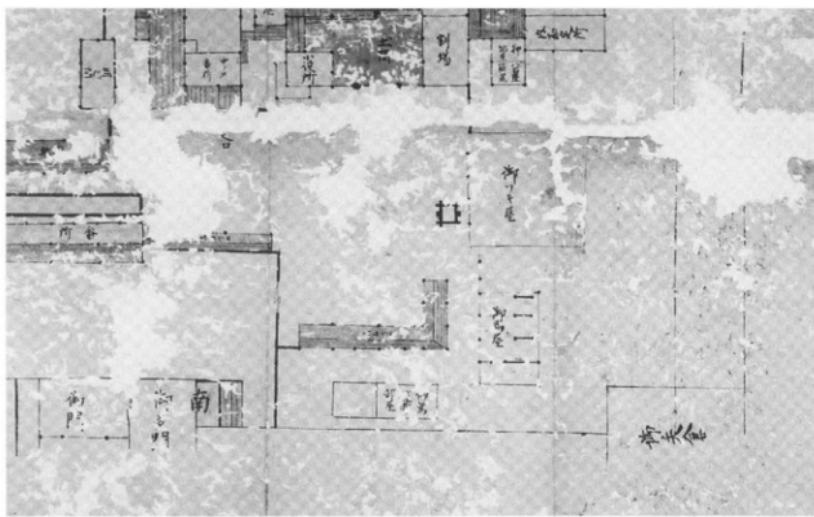


写真 27 「披雲閣見取図」拡大

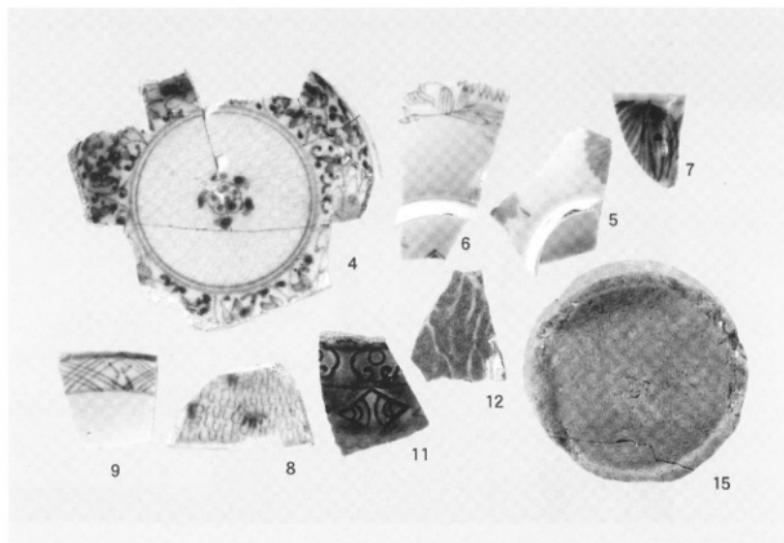


写真 28 第 1 トレンチ第 10 層出土遺物

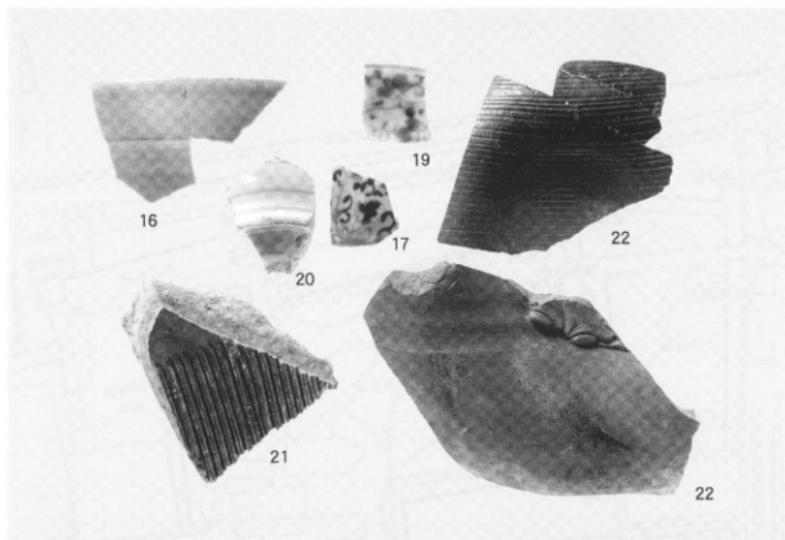


写真 29 第 1 トレンチ第 11 層出土遺物

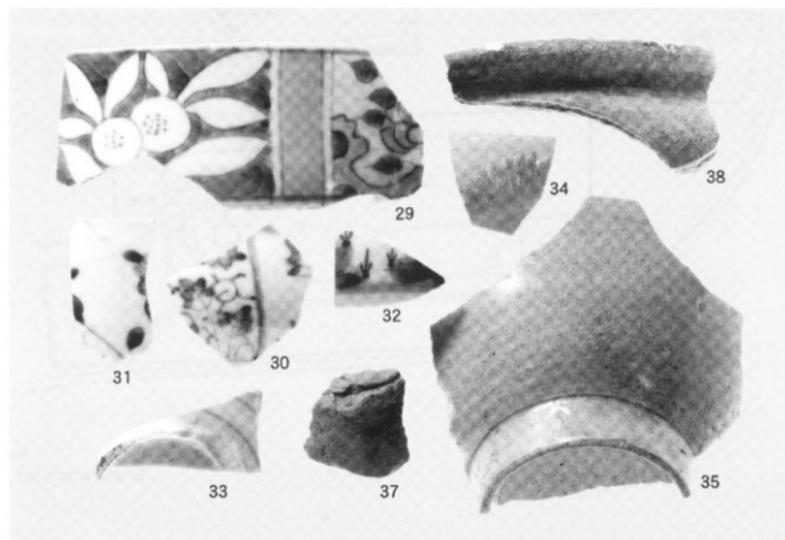
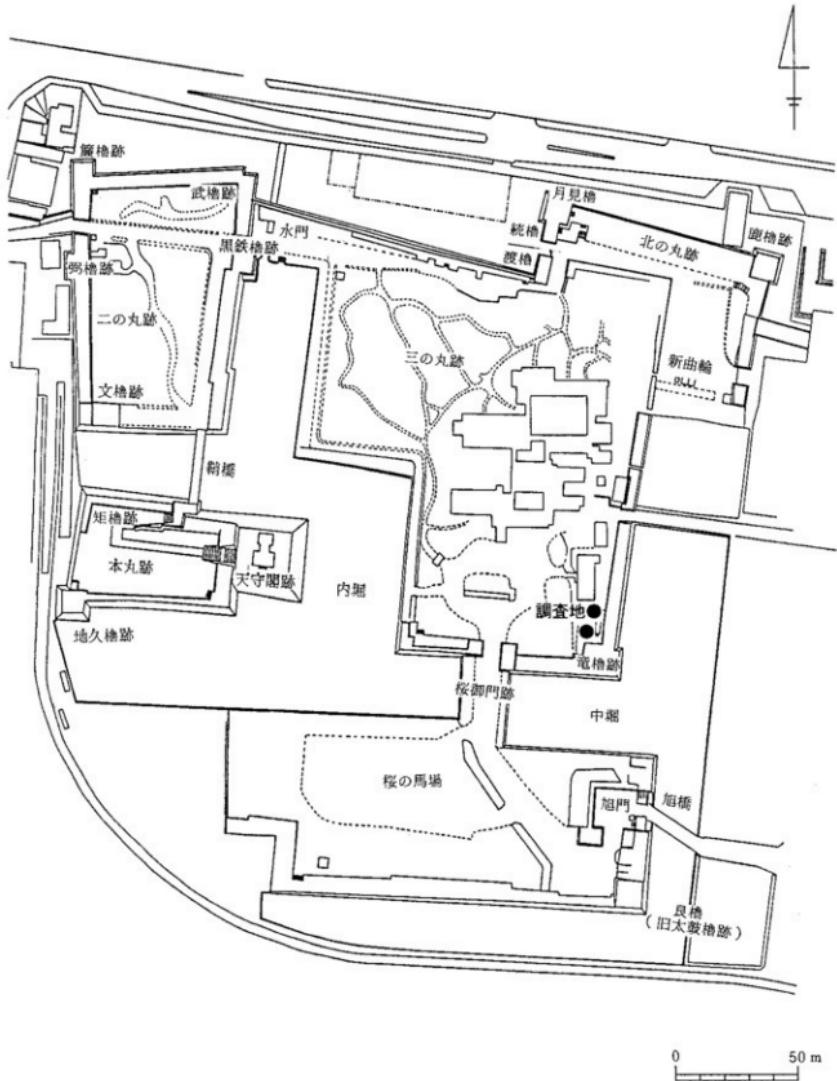
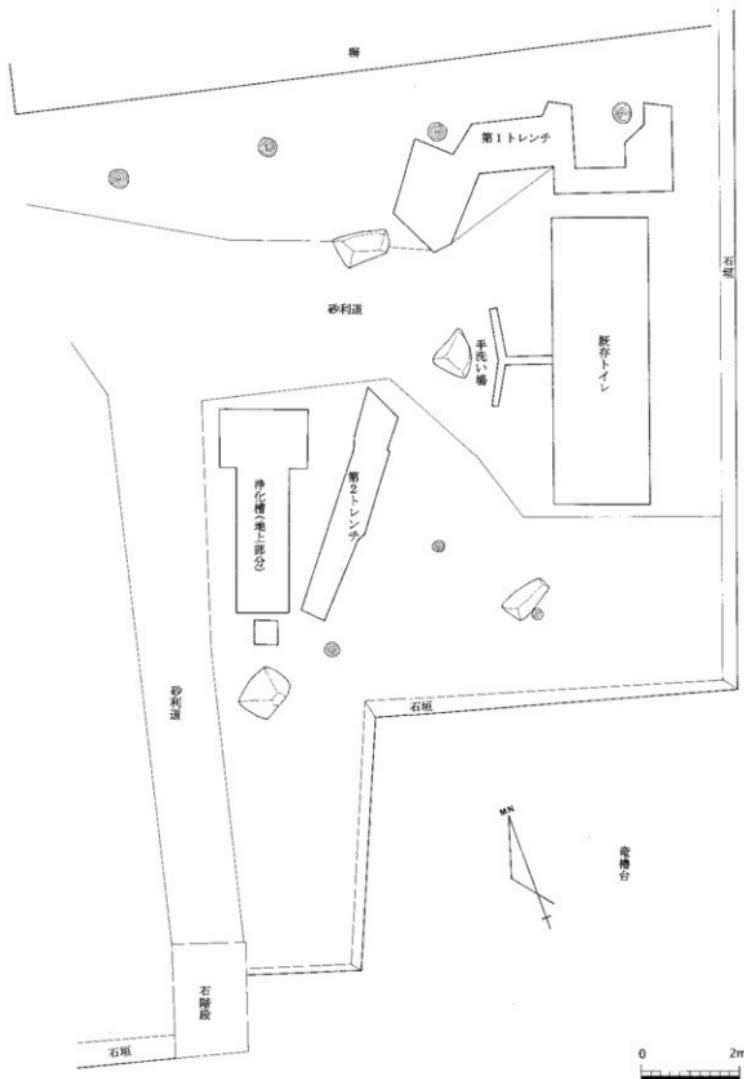


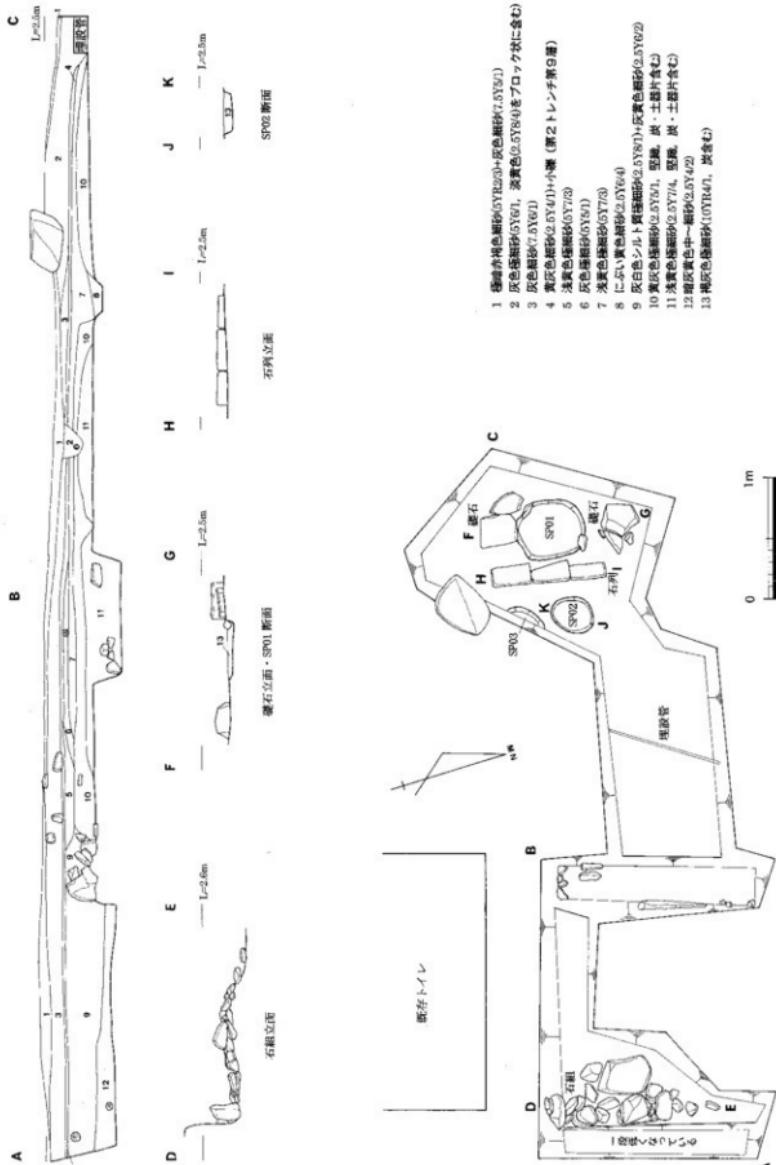
写真 30 第 2 トレンチ第 10 層出土遺物



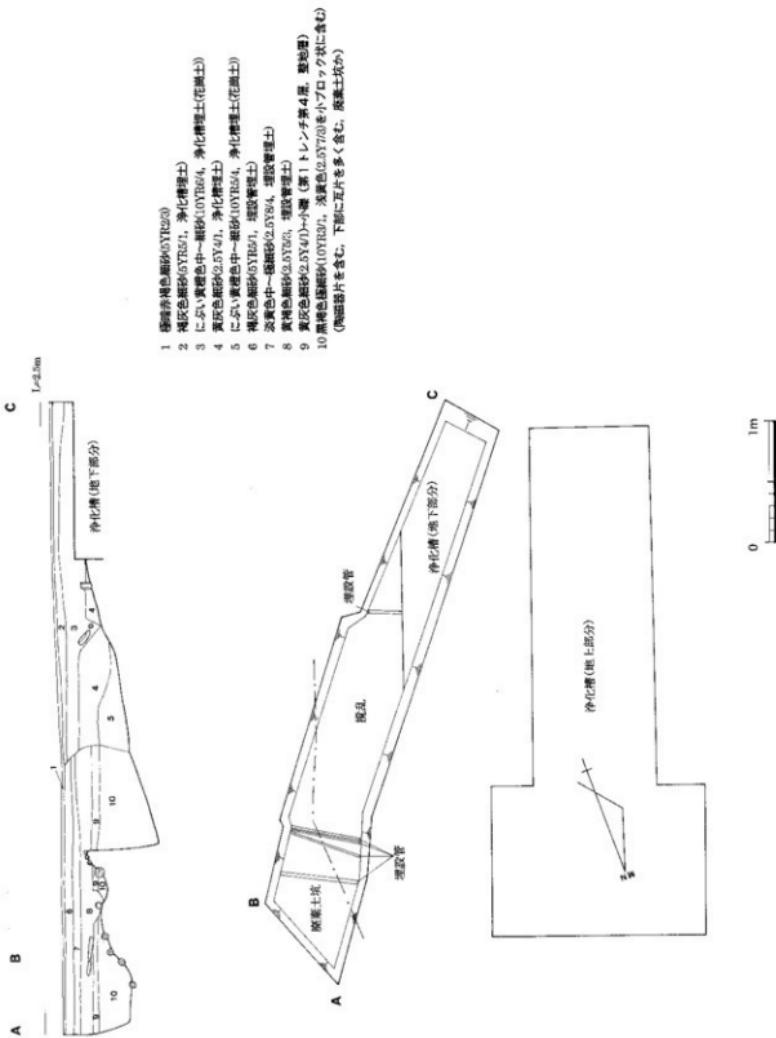
第 12 図 史跡高松城跡平面図（縮尺 1/2,000）



第 13 図 史跡高松城跡三の丸竜櫓台北側トレンチ配置図（縮尺 1/100）



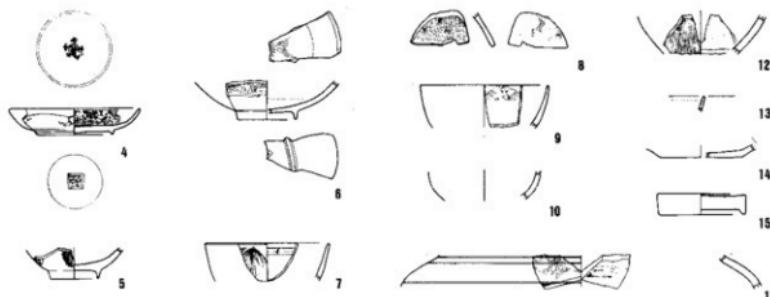
第14図 史跡高松城跡三の丸竪櫓台北側第1トレンチ平面・土層図（縮尺1/40）



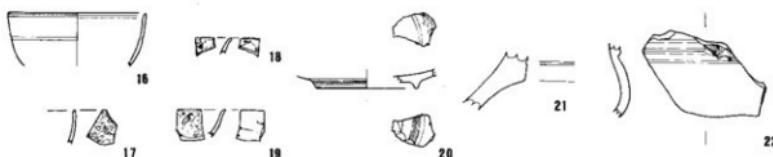
第 15 図 史跡高松城跡三の丸竜櫓台北側第 2 トレンチ平面・土層図（縮尺 1/40）



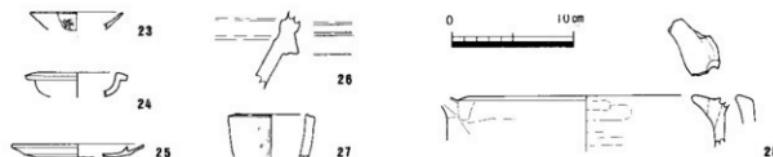
1~3 第1トレンチ第2~4層



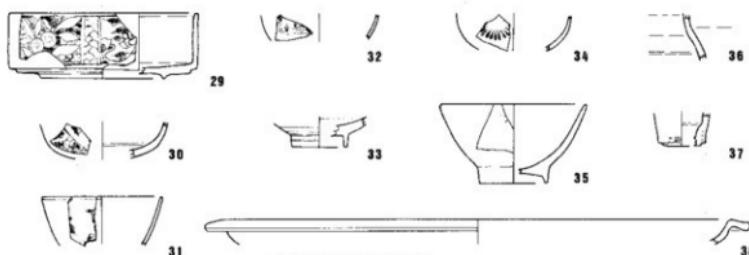
4~15 第1トレンチ第10層



16~22 第1トレンチ第11層



23~28 第2トレンチ第4層



29~38 第2トレンチ第10層

第16図 史跡高松城跡三の丸竜櫓台北側トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4）

## みたにちょううばかい 三谷町姥懐地区

1. 調査地 三谷町字姥懐
2. 調査期間 平成14年11月5日
3. 調査担当者 山元 敏裕
4. 調査の原因 知的障害者通所授産施設建設
5. 調査の概要

社会福祉法人銀河の会が三谷町字姥懐に建設を計画している知的障害者通所授産施設の予定地内における埋蔵文化財についての確認調査を実施した。今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、近くに三谷三郎池B遺跡をはじめ多くの遺跡が近接しており、これらの遺跡が予定地内にも広がっている可能性が想定されたため、施設建設に先立ち確認調査を実施したものである。

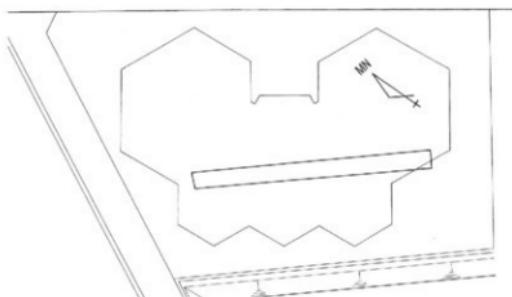
試掘トレンチは、施設建設予定地南側において、長さ20m、幅1.5mの規模で設定し、重機により下部の状況を確認した。トレンチ調査の結果、現地表面から0.8~1mは造成土である花崗土、その下が黄灰色粘土の地山であり、遺構は認められなかった。

### 6. まとめ

当該地は、過去に地盤改良が行われており、その際、下部の堆積土が除去され花崗土に置き換えられたものと想定される。したがって、埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。



第17図 三谷町姥懐地区調査地位置図



第18図 調査地トレンチ配置図



写真31 トレンチ全景



写真32 トレンチ土層堆積状況

## ろくじょううちょうげしょ 六条町下所地区

- 調査地 高松市六条町字下所
- 調査期間 平成14年10月7日、17日
- 調査担当者 山元 敏裕
- 調査の原因 変電所および鉄塔新設工事
- 調査の概要

四国電力株式会社の計画する六条変電所新設工事ならびに六条支線鉄塔3基の新設工事に先立ち、埋蔵文化財の確認調査を行った。試掘調査箇所の決定については、周知の埋蔵文化財包蔵地である空港跡地遺跡に最も隣接する変電所新設予定地および支線鉄塔新設予定地の内、同遺跡に近い鉄塔1基について試掘調査を実施することとした。

### 【変電所予定地】

予定地内の北側と南側に東西方向のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。北側の第1トレンチは長さ20.5m、幅1.5mのトレンチを設定した。

トレンチ内の土層は耕作土、床土の下が遺構面となる。トレンチの東側は浅いビット1基を確認したが遺物の出土がないため、時期は不明である。遺構ではないがベースである黄灰色シルト上に噴礫を確認した。時期は不明である。南側の第2トレンチは中央の畦畔を挟んで西側は長さ13.5m、幅1.5m、東側は長さ13.5m、幅1.5mである。確認した遺構は西側トレンチでビット1基を確認したが、遺物が出土していないため、遺構の時期は不明である。

### 【鉄塔新設予定地】

予定地の南側に幅1m、長さ6mの東西方向のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。調査地は耕作土・床土を除去した段階で、ベースである黄灰色シルト遺構面に到達する。この堆積状況は変電所予定地と同様である。精査の結果、中世頃と考えられる鋪溝を3条確認したが、遺物が認められず、細かな時期は不明である。

### 6.まとめ

予定地は、空港跡地遺跡に隣接することから、空港跡地遺跡の東側で確認されている弥生時代や古代から中世の時期の遺構が想定されたが、各トレンチとも遺構は確認したものの、単独の確認であり、遺構密度は希薄である。周知の埋蔵文化財包蔵地である空港跡地遺跡は、当該地までは広がっていないものと想定される。このため、新設工事に先立っての発掘調査は必要ないと判断した。



第19図 六条町下所地区調査地位置図



写真33 変電所予定地北側トレンチ全景

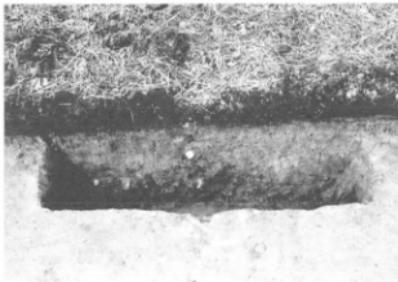


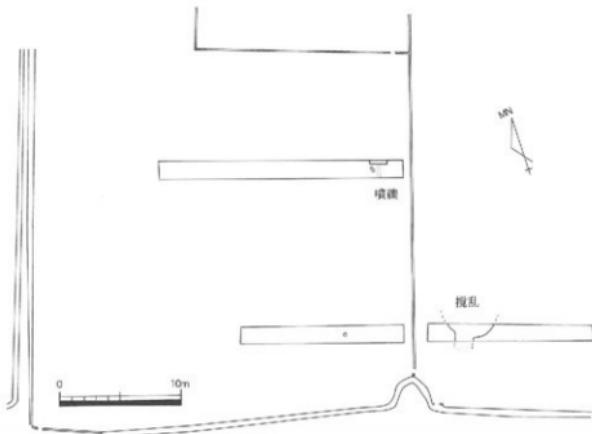
写真34 同トレンチ噴礫状況



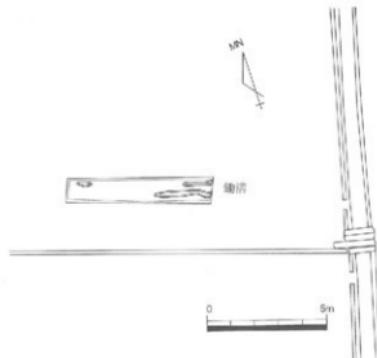
写真 35 変電所予定地南側トレンチ全景



写真 36 鉄塔予定地トレンチ全景



第 20 図 変電所予定地トレンチ配置図（縮尺 1/400）



第 21 図 鉄塔予定地トレンチ造構配置図（縮尺 1/200）

## ひさもとこふん 久本古墳

- 調査地 高松市新田町
- 調査期間 平成14年11月14日～15日
- 調査担当者 川畠 聰
- 調査の原因 新田町61号線道路改良工事
- 調査結果の概要

高松平野東部の丘陵地に立地する久本古墳は、石棚をもつ巨大な横穴式石室墳（古墳時代後期）として知られている。昭和50年に実施された石室の発掘調査では、土師質陶棺や承盤付銅鏡といった貴重な遺物が出土し、当時の畿内政権と深い関わりがある被葬者像が推定されている。高松市では市史跡に指定して久本古墳の保護を図っている。ただし、現在残されている墳丘は、石室の天井石が露呈するなど著しく盛土が流失しており、本来の墳丘規模は不明であった。

こうした中、久本古墳石室の前面を通っている市道新田町61号線の道路改良工事が計画され、工事予定地が本来あった古墳の墳丘範囲内にかかっていることが想定された。このため、工事に先立ち確認調査を実施した。トレーンチは、現有道路の両側拡幅部分において設定した。

第1トレーンチでは、古墳の周溝および墳丘盛土を検出した。周溝は、幅約4mを測り、2層の埋土（第8・9層）を確認するとともに、須恵器が埋土中より出土した。出土した須恵器は、甕体部片で、古墳時代後期のものと推定される。

第2トレーンチは、第23図では図示していないが、第1トレーンチ西隣の一段低い水田に設定した。江戸時代以降の土坑を確認したのみである。

第3トレーンチは、石室から約6m離れるものの石室前面に設定した。その結果、石室の延長上にまっすぐ延びる溝を検出した。また、江戸時代以降と推定される条里地割に沿った溝も検出している。

第4・5トレーンチは、第1トレーンチで検出した周溝の続きを確認する目的で設定した。第4トレーンチでは、周溝埋土の一部（第8層）を確認し、堆積が約5cmと薄いことから周溝の縁辺と考えられる。さらに、墳丘盛土（第10層）を確認するとともに、盛土直下から溝1条を検出した。

第5トレーンチでは、周溝埋土直上に堆積している第7層を確認するとともに、第7層直下に第8層が存在することも確認し、第1トレーンチで検出した久本古墳周溝が続いていることを確認した。

第6トレーンチは、第3トレーンチ東側で市道が一段高くなっている箇所について、古墳関連遺構の確認を目的に設定した。約80cmの近現代の堆積・盛土層の下に、墳丘盛土である第10層を確認した。

### 6.まとめ

第1・4・5トレーンチで検出した周溝から、横穴式石室奥壁を中心に墳丘範囲を推測すると、墳丘直径は約36mを測る。さらに、平成15年1月～2月にかけて本調査を実施し、その結果、周溝を含めた古墳の規模は直径約56mを測る円墳となった。この規模は、巨大な横穴式石室にふさわしく、古墳時代後期において県下有数のものである。



第22図 久本古墳調査地位置図



写真 37 第1トレンチ（西から）



写真 38 第1トレンチ（西から、周溝近接）



写真 39 第1トレンチ土層（南西から）



写真 40 第2トレンチ（西から）



写真 41 第3トレンチ（南から）



写真 42 第4トレンチ（南西から）

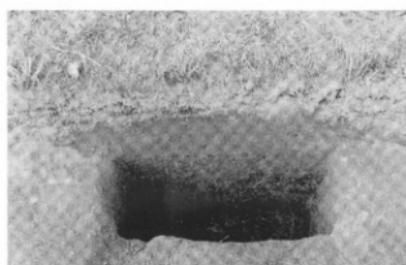


写真 43 第5トレンチ（南から）

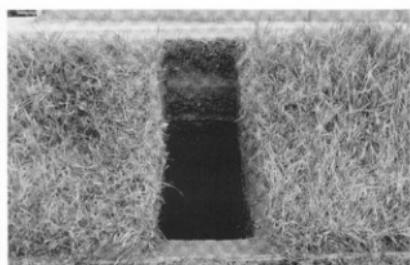
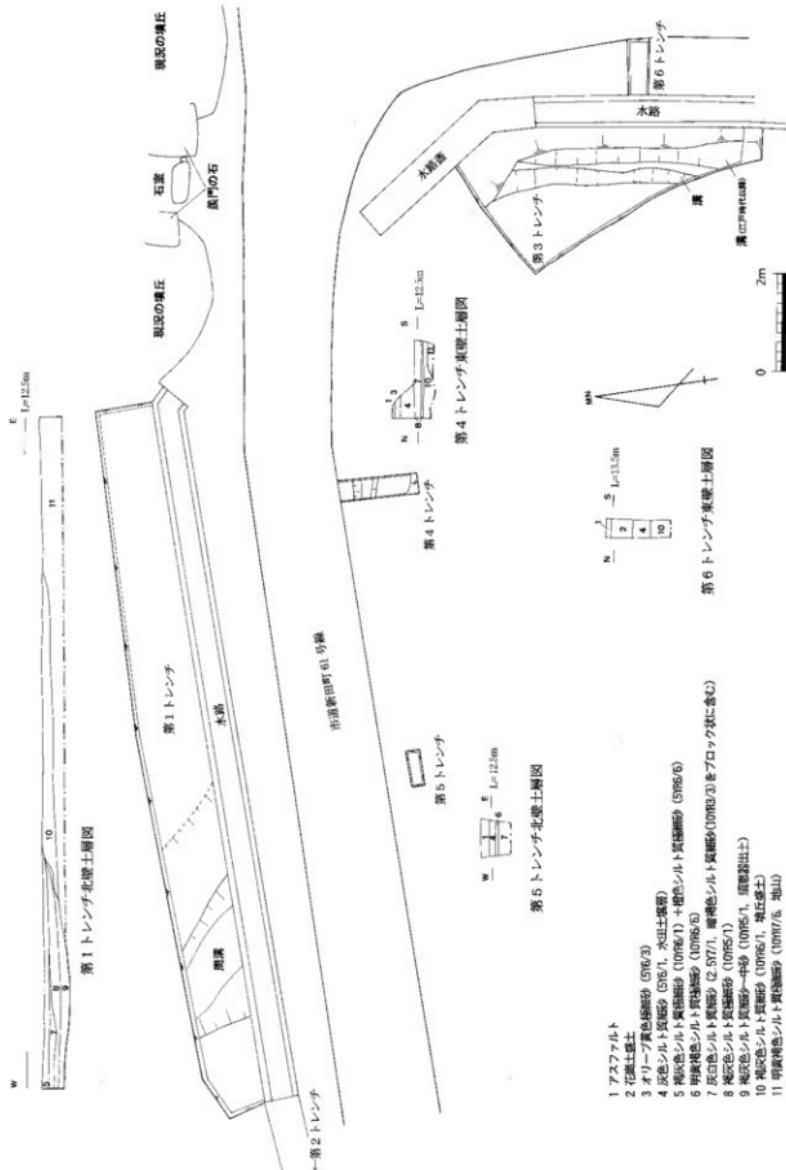


写真 44 第6トレンチ（西から）



第23図 久本古墳トレンチ平面・土層図 (縮尺 1/100)

たかまつじょうあと  
高松城跡（丸の内）

1. 調査地 高松市丸の内
2. 調査期間 平成14年11月28～29日
3. 調査担当者 川畠聰
4. 調査の原因 個人住居ビル建設工事
5. 調査結果の概要

高松城は、天正15年(1587)に入封した生駒親正によって翌年より築城され、寛永19年(1642)に高松藩主となった松平家が明治維新を迎えるまで藩の居城であった。今回の調査対象地は、中堀の南側にあたり、江戸時代後期の絵図には「江戸長屋」と表記されていることから、中下級武士の屋敷地跡と推定される。

ビル基礎部分において、機械掘削によって生じた断面の土層観察により立会調査を実施した。調査地は、かつて建っていたビルの基礎工事により、大部分の範囲が深く掘削され、江戸時代の整地層の残存状況は良好ではなかった。整地層の残存範囲は、第25図平面図のとおりである。

確認した整地層と遺構は、第26図土層図のとおりである。第3・6・9層が整地層であり、各層上面が遺構面と考えられる。なお、第1層は高松空襲時の焼土層である。南側ブロック西側壁面第3層下すなわち第6層上面で瓦溜の廐棄土坑(第4層)を確認した。また、溝状遺構(第5層)も第4層と同じ埋土であることから、同時期もしくは同一の遺構となる可能性がある。南側ブロック南側壁面において、第6層を埋土とする溝状遺構を確認している。

南北ブロック壁面精査中に遺物(第27図)が出土したが、一部を除いて出土層位は特定できなかつた。1は肥前系の染付小杯で1820～60年代のものと考えられる。2は施釉陶器の蓋付鉢で19世紀のものである。3も施釉陶器で19世紀のものである。4も軟質施釉陶器の徳利である。5は堺・明石焼の擂鉢である。6は第3層から出土した土師質土器の底部である。7・8は軒丸瓦の瓦当部の破片である。

#### 6.まとめ

現時点以上の工事掘削が行われないことから、残っている部分は現状保存とし、掘削された部分についてのみ土層観察による記録保存を図った。



第24図 高松城跡（丸の内）調査地位置図



写真45 調査地全景（南から）



写真 46 調査地全景（北西から）



写真 47 北ブロック西壁（北側、西から）



写真 48 北ブロック西壁（南側、西から）



写真 49 北ブロック南壁（南西から）



写真 50 南ブロック西壁（西から）



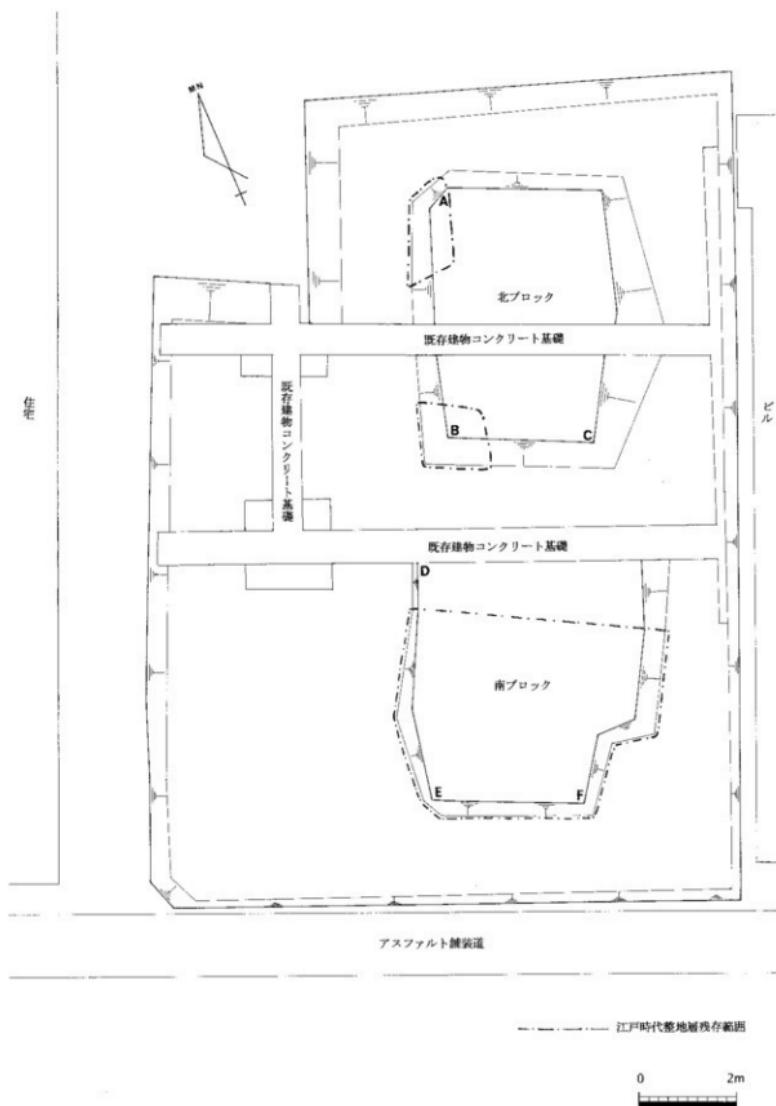
写真 51 南ブロック西壁（瓦溜遺構、西から）



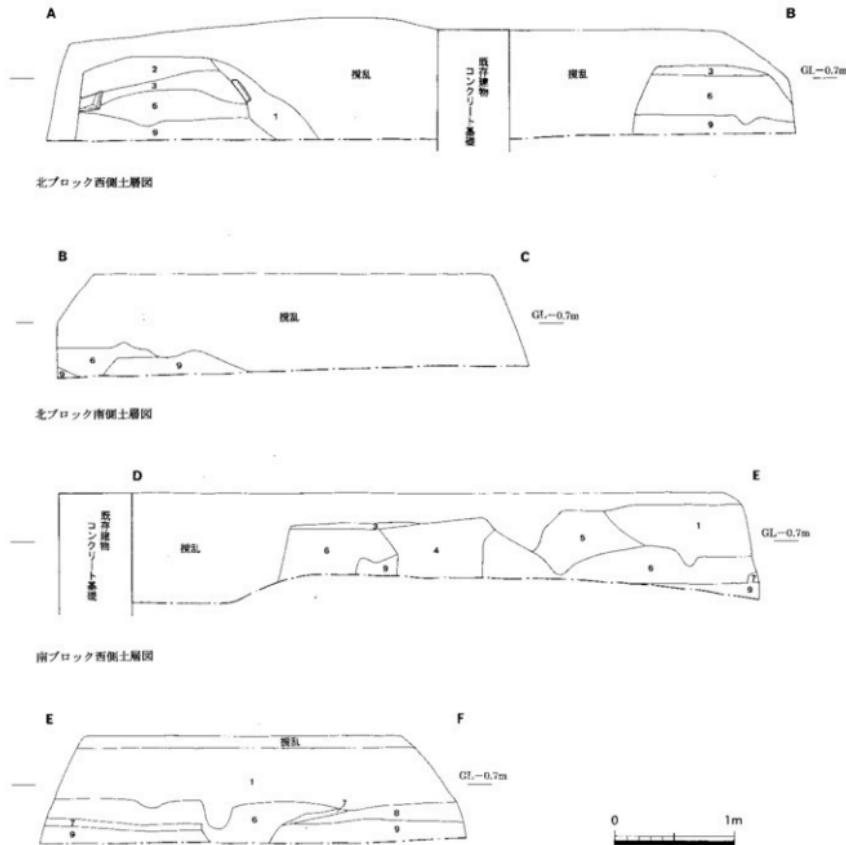
写真 52 南ブロック西壁（溝状遺構、西から）



写真 53 南ブロック南壁（南西から）

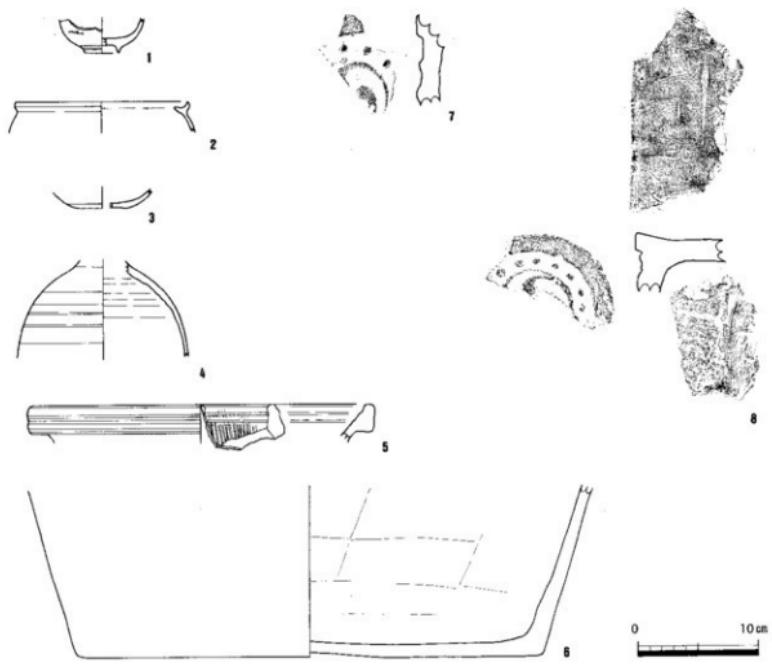


第25図 高松城跡（丸の内）平面図（縮尺1/100）



- 1 にぶい黄褐色シルト質細砂 (10YR4/3, コンクリート片・瓦片を含む, 高松空襲時)  
 2 暗灰色シルト質細砂 (10Y5/1, 灰を多く含む)  
 3 灰色シルト質細砂 (5Y5/1, 瓦・土器小片を含む)  
 4 黄灰色シルト質細砂 (2.5Y4/1, 瓦罐遺構)  
 5 黄灰色シルト質細砂 (2.5Y4/1, 滑状透構)  
 6 オリーブ黄色シルト質細砂 (5Y6/3, 繋けた瓦片・礫を多く含む)  
 7 波黄色粘土 (5Y8/3)  
 8 浅黄色シルト質細砂 (5Y7/3)  
 9 灰色シルト質細砂 (5Y4/1, 瓦・土器小片をわざかに含む)

第 26 図 高松城跡（丸の内）土層図（縮尺 1/40）



第27図 高松城跡（丸の内）出土遺物実測図（縮尺1/4）

## 報告書抄録

| ふりがな             | たかまつしないいせきはくつちょうさがいほう                      |       |         |              |            |                             |                    |              |
|------------------|--|-------|---------|--------------|------------|-----------------------------|--------------------|--------------|
| 書名               | 高松市内遺跡発掘調査概報                               |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 副書名              | 平成14年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書        |       |         |              |            |                             |                    |              |
| シリーズ名            | 高松市埋蔵文化財調査報告                               |       |         |              |            |                             |                    |              |
| シリーズ番号           | 第64集                                       |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 編集者名             | 川畠 雄                                       |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 編集機関             | 高松市教育委員会                                   |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 所在地              | 〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087(839)2636 |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 発行年月日            | 平成15年3月31日                                 |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 所収遺跡名            | 所在地  | コード   |         | 北緯           | 東経         | 調査期間                        | 調査面積               | 調査原因         |
|                  |  | 市     | 町村      |              |            |                             |                    |              |
| 日暮・松林遺跡          | 高松市多肥上町                                    | 37201 |         | 34°17'32"    | 134°03'40" | H14.4.9<br>~<br>H14.4.11    | 428 m <sup>2</sup> | 病院建設         |
| 松縄町南原地区          | 高松市松縄町                                     | 37201 |         | 34°18'31"    | 134°04'01" | H14.8.19<br>~<br>H14.8.22   | 351 m <sup>2</sup> | 校舎増築         |
| 西春日町<br>北山浦地区    | 高松市西春日町                                    | 37201 |         | 34°19'12"    | 134°01'41" | H14.7.9                     | 38 m <sup>2</sup>  | 調整池整備        |
| 史跡高松城跡<br>(玉藻公園) | 高松市玉藻町                                     | 37201 |         | 34°20'47"    | 134°03'15" | H14.10.7<br>~<br>H14.10.10  | 8 m <sup>2</sup>   | 他目的トイ<br>レ整備 |
| 三谷町姥懐地区          | 高松市三谷町                                     | 37201 |         | 34°15'23"    | 134°04'13" | H14.11.5                    | 26 m <sup>2</sup>  | 施設建設         |
| 六条町下所地区          | 高松市六条町                                     | 37201 |         | 34°17'36"    | 134°04'57" | H14.10.7<br>~<br>H14.10.17  | 77 m <sup>2</sup>  | 変電所・鉄<br>塔建設 |
| 久本古墳             | 高松市新田町                                     | 37201 |         | 34°18'44"    | 134°06'30" | H14.11.14<br>~<br>H14.11.15 | 35 m <sup>2</sup>  | 道路改良         |
| 高松城跡<br>(丸の内)    | 高松市丸の内                                     | 37201 |         | 34°20'41"    | 134°03'15" | H14.11.28<br>~<br>H14.11.29 | 10 m <sup>2</sup>  | 個人住居ビ<br>ル建設 |
| 所収遺跡             | 名種別  | 主な時代  | 主な遺構    | 主な遺物         |            |                             | 特記事項               |              |
| 日暮・松林遺跡          | 集落   | 弥生    | 竪穴住居、大溝 | 弥生土器、土師器、須恵器 |            |                             |                    |              |
| 松縄町南原地区          |  |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 西春日町北山浦地区        |  |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 史跡高松城跡(玉藻公園)     | 城館   | 江戸    | 礎石、石列   | 陶磁器、土師器、瓦    |            |                             |                    |              |
| 三谷町姥懐地区          |  |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 六条町下所地区          |  |       |         |              |            |                             |                    |              |
| 久本古墳             | 古墳   | 古墳    | 周溝、溝    | 須恵器          |            |                             |                    |              |
| 高松城跡(丸の内)        | 城館   | 江戸    | 土坑、溝    | 陶磁器、土師器、瓦    |            |                             |                    |              |

